実施状況調査報告書（スポーツ振興基金助成）

■活動概要

助成年度	令和７年度
助成団体	公益財団法人日本オリンピック委員会
活動細目名	スポーツ団体選手強化活動助成（愛知・名古屋 2026 アジア競技大会実施競技支援）
活動名	強化指定選手国内合宿
助成金額	3,457,000 円

令和 7 年度スポーツ団体選手強化活動助成（愛知･名古屋 2026 アジア競技大会実施競技支援）を活用し、一般社団法人日本 e スポーツ協会が行っている「強化指定選手国内合宿」の実施状況について調査を行いました。本事業は、愛知・名古屋 2026 アジア大会に向け、競技ごとの強化拠点等において、計画的かつ継続的に行う選手強化活動に対して助成を行うことにより、競技水準の向上を図ることを目的としているものです。

今回調査を行った「強化指定選手国内合宿」では、スポーツの持つ医科学的知見を応用して ｅスポーツ選手の強化を目的とした合宿を行っています。調査当日は、概要説明や講義、研究分析、研究に基づくデータの測定、ｅスポーツの実演を視察しました。

■助成の意義

ｅスポーツ競技は今まで医科学的知見を導入することありませんでしたが、本助成によって、実績ある従来のスポーツの知見で強化するという画期的な取り組みをより多くの選手を対象に実施できるようになったとのことです。

また、競技大会本番に選手が 100%の力を発揮できるようにピーキング環境の整備を継続的に行うとともに、アジア競技大会に向けて、具体的な強化プログラムの着手に取り組んでいきたいと考えているとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

合宿の効果を高める取り組みとして、合宿後に参加選手へ詳細なアンケート調査（スポーツ医科学・スポーツ栄養・スポーツ心理・スポーツ科学）等を実施し、その内容を踏まえて個別サポートの紹介を行うなど、心と身体の不調を防ぎ、よりよい精神状態で競技パフォーマンスを上げていくことに努めているとのことです。

■所感

e スポーツにおいても、従来のスポーツ科学を応用し選手のゲームパフォーマンスの向上につながる点が多々あるそうです。

選手たちは瞬時の判断力、精密な操作技術、そして高度なチーム連携を発揮しており、チーム戦では、戦術理解とコミュニケーション能力が勝敗を大きく左右しており、単なるゲームではなく

「競技」として確立されていることが印象的でした。

ルールの変化や選手のキャリア形成、身体的・精神的負担への配慮など、持続可能な競技環境の整備は今後も重要になっていくことから、選手一人ひとりが高い志をもって挑戦を続けることを期待しています。

（令和８年３月３日往査）

（写真）合宿の様子	
	